

Library News



京教図書館 News

2009

7

私のすすめるこの1冊…… 田中 里志（理学科 准教授）

佐藤 学 著

『教師花伝書 ー専門家として成長するためにー』

この著書のタイトルは「教師花伝書」、・・どこかで聞いたことがあるような気がする。そう、室町初期に世阿弥が残した「風姿花伝」を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。「風姿花伝」は、世阿弥の父である観阿弥の教えをもとに、世阿弥自身が会得した能の修行法、心得、演技論、演出論さらには美学など「能」の芸道の視点からその解釈を加えた著作であることはよく知られている。ここに紹介する著書「教師花伝書」は、まさにその「風姿花伝」の精神にのっとり、教師が授業を行う上での心（＝思想・哲学）と態[わざ]（＝身体技法・見識）を学ぶ道筋を示した著書であるといえる。著者がこれまで見てきた様々な学校での授業実践と自らの長年の経験を基に、教師の教室でのあり方や基本的な姿勢、教えることはもとより教師の学びのあり方や授業者としての方法など、著者の考えとともに一つの道標のような方向性が示されている。印象に残った一部をここに紹介する。

著者が学校授業の中で重視していることに、授業が始まる前の教室の「息づかい」と、教室での教師の「居方」（著者の造語で教師のポジショニング）をあげている。授業が始まる前の教室の息づかいがすべての授業の成否を決定づける、とまで断言している。「息づかい」とは、子どもたちの内面にある授業への姿勢や個々の意気込みにも似た雰囲気、教室の緊張感や教師がもつ研ぎ澄まされた空気など、その場のすべてが合わさった感覚的なものと私は理解したが、著者がこれまでに訪問した参観授業の経験から得た感性なのだろう。また教室における教師の「居方」とは、教師の立ち位置の取り方とその立ち位置から子ども一人ひとりの関係の取り方であることをあげ、その難しさを言及している。ベテランの教師でも教室での立ち位置は戸惑うが、ましてや教育実習生や若い教師にとっては誰もがぶつかる壁であろう。著者は参観した多くの授業実践例から選りすぐりの一つを示し、その授業風景を引き合いにして問題解決の糸口を私たちに示している。このように様々な場面において参考になる事項が多い。

この著書の内容が生きいきと感じられるのは、すべてが現場教師の実践例に基づいている点にあるだろう。実際に行なわれた授業例、実際の学校で解決に向かった取り組み例など、その具体的な教室でのやり取りや学校の様子が詳細に描写されており、私たちのなかにその光景が浮かんでくる。現場の教師やこれから教師を目指す学生・院生が今抱えている課題や悩みの一部が、著書の中に実践例として取り上げられているかもしれない。教育現場では10人の子ども（生徒）がいれば、その対応も10種類いやそれ以上だろう。すべてがこの一冊で解決できるはずもなく、

（次ページに続く）

取り上げられている実践例も成功したものばかりではない。ただどこかのページに解決策になるヒントが隠れているのではないだろうか。

「教師にとって学び続けることこそが重要である。教師の仕事の本質は教えること以上に学ぶことにある。教師は授業者の実践から学び、教室の子ども（生徒）の事実から学び、そして自らの実践の事実から学ぶ。」この著書にたびたび登場する「学ぶ」・「学びあう」というフレーズである。ある授業をよし悪しだけで判断するのではなく、そこから学ぶ（学びあう）謙虚さが必要だということである。私自身も反省する点が多い。

最後に著者は、「教師はいつも受難を生きることを宿命づけられている。」と断言する。ただし、この受難は教師の仕事をいっそう複雑で困難にはするが、教師の不幸を意味するものではなく、その一方で教師の実践をいっそう知性的で創造的なものへと変革させるものとして、現場の教師や教師を志す者たちへエールを送るかたちで締めくくっている。まさに世阿弥の「風姿花伝」の精神がここにあるのだろう。

この著書には決して回答が提示されている訳ではないが、教師としてどうしていいか分からない不安や解決策のヒントが随所に盛り込まれている。現職教員のみならず教育実習をひかえた学生、教員採用試験を目前にした諸君にお薦めする一冊である。

「教師花伝書 一専門家として成長するために」 著者：佐藤 学 著 発行所：小学館
発行年：2009年4月 ISBN：978-4-09-837384-0 1,260円（税込） 購入手続中

■ 図書館からのニュース

1. 論文検索・収集法講座を7月も開催します！

実際にパソコンを使って、論文の探し方から入手方法までをわかりやすく教える講座を、4月～6月に引き続き開催いたします。所要時間は約30分です（実際に雑誌を手にするまでを体験する館内探索オプションをつけると、約1時間です）。

※4月～6月に開催したものと内容は同じです。

開催日時	7月2日(木) 16:45～	7月10日(金) 14:30～
	7月15日(水) 13:00～	7月21日(火) 14:30～
	7月27日(月) 10:30～	

ご予約は不要ですが、先着4名様までとさせていただきます。時間になりましたら、附属図書館1階カウンターまでお越しください。

2. 夏季休業に伴う長期貸出について

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対象	院生・教職員	学部生
貸出期間	7月9日(木)～9月5日(土)	7月23日(木)～9月19日(土)
貸出冊数	10冊	5冊
返却期日	10月5日(月)	

* 卒業予定者の返却期限は9月1日(火)です。

* 視聴覚資料は除きます。

* 長期貸出図書については、貸出の延長はできません。一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。

* 一般利用者の方の長期貸出はできません。

■ 論のくちび理のむすび・・・丸山 啓史

(発達障害学科 講師)

「特別支援学校に通う障害のある子どもの放課後・

休日支援の現状と課題

—京都府における保護者対象質問紙調査より—

京都教育大学紀要 No.114 : pp.149-161

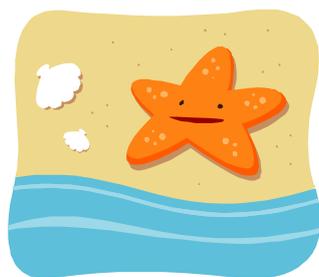
障害のある子どもと家族が放課後・休日の過ごし方に困難を抱えていることが、1990年頃から日本各地で取り組まれた生活実態調査によって確認されてきました。障害のある子どもは放課後・休日に友だちと遊ぶことが少なく、母親と二人で過ごすことが多くなりがちで、テレビ・ビデオをみることが主要な活動内容になることが少なくないのです。放課後・休日の生活が制約されるなかで子どもがストレスを抱えがちなこと、介護者（主に母親）の身体的・精神的な負担が大きいことが問題にされてきました。

そのような状況に対応して、障害のある子どもの放課後・休日支援が広がってきています。また、最近では政策的にも放課後・休日支援の整備が課題として認識されつつあります。このような動向をふまえ、学齢期の障害のある子どもを育てる保護者を対象とする全国的な質問紙調査を実施し、そのなかの京都府の結果について論文にまとめました。放課後・休日支援の実態は自治体・地域により大きく異なると推測されたため、少し範囲を絞っての詳しい検討が必要でした。また、大学の所在する京都府、自分自身が暮らす京都府の状況について特に考えたいという思いがありました。

調査結果からは、京都府においても放課後・休日支援として様々な社会資源が利用されてきていることが確認されたものの、多くの問題があることも明らかになりました。一つは、「利用できる回数・時間が少ない」「必要な時に利用できない」といった、全国にも共通する社会資源の不備の問題で、これは京都府の南部よりも北部でより顕著にみられます。もう一つは、制度的基盤をもち放課後・休日支援の核となる支援が特に未発達であるという、京都府において目立つ問題です。ボランティアサークルなどの活動が活発な一方で、子どもたちが毎日のように通えるような安定的な場が少ないのです。たとえば、今、障害者自立支援法等改正の議論のなかで「放課後等デイサービス」の新規実施がいらわれていますが、現在の「児童デイサービス」による放課後・休日支援が京都府に少ないことがうかがわれます。これらの問題に対応して放課後・休日支援を充実させていくことが課題だといえます。

全文は図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。

■ 図書館開館スケジュール



(通 常)
 開館時間 : 9:00
 閉館時間 : 21:00
 一部期間は 17:00 に閉館します
 下記カレンダー「~17:00」と記載

7

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
						1	整	2		3		4	
						休館							~17:00
5		6		7		8		9		10		11	
休館													~17:00
12		13		14		15		16		17		18	
休館													~17:00
19		20	祝	21		22		23		24		25	
休館	休館												~17:00
26		27		28		29		30		31			
休館													

8

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
												1	
													~17:00
2		3		4		5		6		7		8	
休館								~17:00		~17:00		休館	
9		10		11		12		13		14		15	
休館		~17:00		~17:00		休館		休館		休館		休館	
16		17		18		19		20		21		22	
休館		~17:00		~17:00		~17:00		~17:00		~17:00		休館	
23		24		25		26		27		28		29	
休館		~17:00		~17:00		~17:00		~17:00		~17:00		休館	
30		31											
休館		~17:00											

7月1日(水)は館内整理のため休館します。
 7月20日(月)は、祝日のため休館します。

8月6日(木)から8月31(月)までの平日は短縮開館します。

8月8、15、22、29日(土)は休館します。
 8月12日(水)から14日(金)は夏季一斉休業のため休館します。

京教図書館 News No. 106 2009年7月号
 編集発行：京都教育大学附属図書館
 発行日：平成21年7月1日
 内容に関するお問い合わせ先：
 附属図書館(内線8176)